

The Scrum Values

Japanese Version (2021)



العربية

Беларуская . বাংলা

简体中文 . 繁體中文

Dansk . Nederlands . English

Filipino / Tagalog . Français . Deutsch

The Scrum Values

Ελληνικά . हिंदी . Italiano . 日本語 . मराठी

Latviski . فارسی . Polski . Português

Русский . Español . தமிழ்

Türkçe . Українська

Tiếng Việt

Dear reader

Scrum is based on a set of fundamental values. These values are the bedrock on which Scrum's practices rest.

The Scrum Values were first described by Ken Schwaber and Mike Beedle in their book “Agile Software Development with Scrum” (Prentice Hall, 2002 - chapter 9, p. 147). They describe the Scrum Values as ‘qualities’ that they found that people using Scrum display: Commitment, Focus, Openness, Respect, and Courage.

Towards the end of 2012, an attendant of one of my Professional Scrum classes (a candidate-trainer actually) asked me about the relevance of the Scrum Values. I realized that they had indeed over time faded, although I did personally consider them important. I checked in with Ken Schwaber and he agreed: still the bedrock despite having disappeared from the radar.

It was clear that there was value in the Scrum Values and in describing them. So, that is what I did on my [website](#). I then also added that description to my book “Scrum - A Pocket Guide” (Van Haren Publishing, 2013). In 2016 they were added to the Scrum Guide. In 2018-2019 members from the global Scrum communities translated my description in 20+ languages.

Since 2012 I have only slightly evolved the words to describe the Scrum Values, like when creating the second and third edition of my pocket guide to Scrum (2019 and 2021). I am honoured and humbled for the continued appreciation of my description.

I gladly share them in this document that can be downloaded from thescrumvalues.org, the website that I dedicated to [the Scrum Values](#).

I am grateful to Tomoharu Nagasawa and Kiro Harada for creating this Japanese version.

Keep learning,
Keep improving,
Keep...Scrumming.

Gunther Verheyen
independent Scrum Caretaker



Japanese / 日本語 – スクラムの価値基準

人々や組織がそれぞれの時間や状況に合わせて、具体的かつ適切な作業プロセスを開発するためのフレームワークとしてスクラムは作られた。スクラムは、定期的に検査と適応のプロセスを経るようリマインダーを設定してくれる。スクラムでは、経験的プロセス制御（または経験主義）を実践する。それが、予測不可能で複雑な課題に対応するのに最も適したアプローチであるためである。スクラムの境界線の内側では、人々は自己組織化することになる。外部の作業計画や指示を課されることなく、問題や課題について組織化されたグループを形成する。経験主義と自己組織化は、スクラムのDNAを形成する。スクラムのすべてのルールや原則はこれに根ざしている。

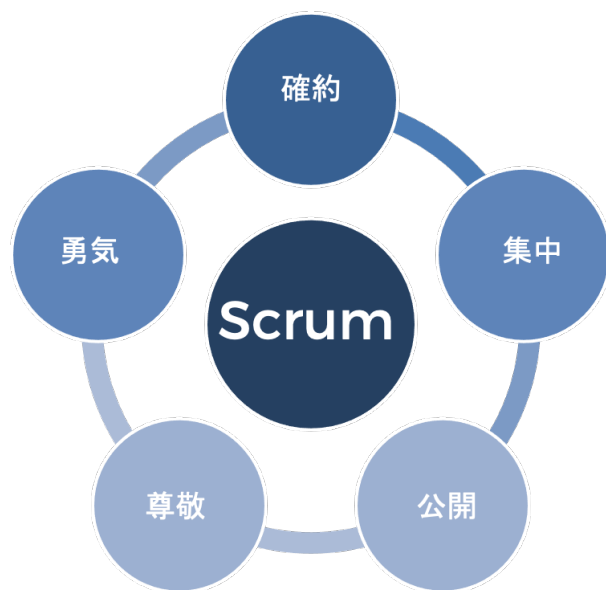
しかし、スクラムにはルールや原則以上のものがある。スクラムとは、プロセスというより振る舞いのことである。スクラムのフレームワークは、5つの核となる価値基準に基づいている。これらの価値基準は、スクラムの一部として考案されたものではなく、スクラムだけのものでもない。

（人々、複雑さ、経験主義を背景に適切に理解された場合は）スクラムにおける作業と振る舞い、行動に方向性を与えるものである。スクラムにおいては、我々の意思決定や取り得るステップ、ゲームの進め方、プラクティス、スクラムに基づく活動は、すべてこれらの価値基準を弱めたり損なったりするものではなく、より強化するものであるべきだ。

スクラムはこれらの価値基準に基づく。そして、スクラムはこれらの価値基準を通じて表現される:

- * 価値基準が振る舞いを促す。スクラムの価値基準は、明確に振る舞いの種類を意味している。また、スクラムのルールをよりよく理解して、実践し、複雑な状況での複雑な作業を行う上で、より多くの価値を得るためのガイドとなる。
- * 振る舞いが価値基準を映す。スクラムの採用が進み、より理解が進み、実践されるようになり、洗練され、流動性が増すにつれて、交流や共同作業においてスクラムの価値基準が優先されるようになることが予測できる。それらはスクラムにおけるバロメーターであり、健全性の指標となる。

スクラムは、ルール、原則、そして、価値基準のフレームワークである。



確約

確約の一般的な定義は、「ある原因や活動などに専念している状態または資質」である。例えば、あるチームのトレーナーが、（試合に負けたにも関わらず）「選手たちの確約を非難できない」と言ったとする。

これは、スクラムにおいて確約をどのように意図しているのかを正確に示している。確約とは、心がけのことであり、活動と労力の強さに準ずるものである。最終的な結果についてのことではない。なぜならば、複雑な状況下での複雑な課題においては、結果自体が不確実で予測ができないことが多いからである。

しかし、確約という言葉には、広く誤解がある。スクラムの文脈では、これは主にチームがスプリントに**確約**すべきだという、スクラムのフレームワークで表現された過去の期待に由来している。従来の産業におけるパラダイムの視点では、これは、スプリントプランニングで選択したスコープを何があってもスプリントの終わりまでに完了するという期待だと誤って変換されていた。**確約**は、ハードコードされた契約として誤って変換されてしまったのだ。

スクラムが導く複雑で創造的で非常に予測不可能な世界では、時間と予算に対して、正確または、正確に予測できるアウトプットやスコープを提供するという約束は、全く不可能である。作業に影響を与える変数のうち、未知のものや予測不可能な方法で動作するものがあまりにも多いからである。

本来の意図をよりよく反映し、経験主義とより効果的に結びつけるために、スプリントのスコープの文脈における**確約**は**予測**に置き換えられた。本来の意図をよりよく反映するために、私は、「人々に**確約させる**」というよりも、「人々が**確約する**」と言うことを推奨する。これは、予測した結果をハードコードした約束として見られるのを避けるのに役に立つ。

いずれにしても、確約は、実践者の振る舞いを促す重要なスクラムの価値基準である：

実践者は、チームに、そしてチームの共同作業に確約している。彼らは品質を確約する。学ぶことを確約する。持続可能なペースで仕事をするという確約から、ベストを尽くすことを確約する。彼らは、スプリントゴールの達成に確約している。プロフェッショナルとして行動することを確約する。自己組織化することを確約する。洗練に確約する。アジャイルの価値と原則に確約する。完成の定義に準拠した機能するプロダクトバージョンの開発を確約する。改善点を探すことを確約する。スクラムのフレームワークを確約する。価値を提供することを確約する。仕事を終わらせることを確約する。検査と適応を行うことを確約する。透明性を高めることを確約する。現状を打破することを確約する。

集中

スクラムのバランスが取れた明確な責任により、すべての実践者は自分たちの専門性、関心、才能に集中することが可能になる。統括的な目標設定やゴールに集中することで、専門性、スキル、才能を組み合わせ、伸ばし、改善することができる。

スクラムのタイムボックスにより、実践者は、今最も重要なものに集中することができるようになる。将来重要になる可能性があるものに煩わされることはない。彼らは、今知っていることに集中をする。YAGNI (You Ain't Gonna Need It) 原則は、集中を維持するのに役に立つ。実践者は、将来の不確実性が高いため、目前に迫っていることに集中し、将来の仕事のための経験を積むために現在から学びたいと考えている。物事を成し遂げるために必要な仕事に集中する。うまくいくかもしれない最も単純なことに集中する。

スプリントゴールは、4週間以内の期間に対して集中を提供する。デイリースクラムは、スプリントゴールに向けて最善の進捗を遂げるために必要な日々の作業に対して共同で集中することに役に立つ。プロダクトゴールは、スプリント全体に集中でき、方向性を見出し、維持するのに役に立つ。

公開

スクラムによる経験主義では、透明性、公開、誠実さが必要となる。実践者は、賢明な適応をするために現状を検査する。実践者は、自分たちの仕事や、進捗、学び、問題について公開している。彼らは、複数人で一緒に仕事をするために、仕事において公開している。人は、人であり、リソースや、ロボット、歯車、交換可能な機械ではないことを認識している。

実践者は、規律、スキル、職務内容を超えて協力することができる。彼らは、ステークホルダーやより広い環境において協力するために公開されている。フィードバックを共有し、お互いに学ぶことに対して公開されている。

実践者が活動する組織や世界が変化するにつれて、彼らは、予測不可能で、予期できなく、絶え間ない、変化を受け入れることができる。

尊敬

より広いスクラムのエコシステムは、人々への尊敬の上に成り立っている。人々の経験や個性、経歴を尊敬する。実践者は、多様性を尊重する。お互いのスキル、専門性、見識に対して尊敬する。異なる意見を、建設的に意見を交わすための肥沃な土壌として尊敬する。

実践者は、孤立した存在として振る舞うのではなく、世界のより広い環境を尊敬する。顧客が考えを変えろという事実を尊敬する。スポンサーに尊敬を示し、使われない機能やプロダクトの総コストを増加させるような機能を開発しない、あるいは、残しておかないようにす

る。価値のないものや、評価されていないもの、実装されていないもの、使用されていないものに無駄に浪費しないことで、尊敬を示す。ユーザーの問題を解決することで、ユーザーへの尊敬を示す。

すべての実践者は、スクラムのフレームワークを尊重する。彼らはスクラムの責任を尊重する。

勇気


実践者は、誰も欲しがらないものを作らないことで、勇気を示す。要求が完璧になることはなく、どのような計画も現実と複雑さを捉えきれないことを認める勇気を持つ。

変化をインスピレーションとイノベーションの源泉と考える勇気を持つ。未完成のプロダクトバージョンを提供しないことで、勇気を示す。チームや組織に役に立つ可能性のある情報をすべて共有する勇気を持つ。誰もが完璧でないことを認める勇気を持つ。方向転換をする勇気を持つ。リスクと恩恵を共有する勇気を持つ。過去の見せかけの確信を手放す勇気を持つ。

実践者は、複雑さに対応するために、スクラムや、自己組織化、経験主義を促す勇気を示す。

日々の仕事をこなすだけでなく、判断を下し、行動し、前進する勇気を示す。さらに勇気を出して、判断を取り下げる。

スクラムの価値基準を支持し、実行する勇気がある。



“スクラムとは、プロセスというより
振る舞いのことである。”

Gunther Verheyen